

2025年度 核融合科学研究所スクーリング・ネットワーキング事業  
実施報告書

人的交流			
実施責任者	所属機関・部局： [REDACTED]	職名・学年： 准教授	氏名： 文 贊鎬
実施責任者連絡先	電話： [REDACTED]	E-mail： [REDACTED]	
派遣期間	2026年 1月19日 ～ 2026年 1月30日 (12日間)		
交流先機関及び 受入責任者	機関等名：ドイツ グライフスヴァルト大学 受入責任者名：[REDACTED] E-mail：[REDACTED]		
得られた成果等 (行数は適宜増や してください)	<p><b>1. 本事業によって得られた成果のうち特筆すべき事項</b></p> <p>本研究室の学部4年生である 緒方君に対し、核融合分野における世界的な中・大規模実験装置を直接見学する機会を提供することができた。これにより、核融合実験研究に対する理解が深まり、将来の進路選択に大きく資することが期待される。</p> <p>また、本事業を通じて、マックスプランク研究所の優れた研究者との間に、より緊密な国際共同研究ネットワークを構築できたことは、特筆すべき重要な成果である。</p> <p><b>2. その成果が核融合分野の人材育成に果たした（果たすと期待される）事項</b></p> <p>本派遣により、緒方君は世界最先端の核融合実験装置の見学および第一線の研究者との交流を経験した。現在、核融合分野での研究継続や博士課程進学を検討している段階にあり、本経験を通じて当該分野への理解と関心が一層高まり、将来的に核融合研究に貢献できる研究者へと成長することが期待される。</p> <p><b>3. 交流先研究者（グループ）の熱意、態度、研究レベル等に関して参考となる事項</b></p> <p>グライフスヴァルト大学の [REDACTED] 教授は、核融合における非線形乱流研究の分野で国際的に高い評価を受けている研究者である。また、マックスプランク・プラズマ物理研究所のフェローとして、世界最高水準の実験装置を用いたプラズマ乱流研究を精力的に推進している。</p> <p>本交流先は、核融合研究において世界的に卓越した研究拠点であり、研究水準、体制、研究者の姿勢のいずれにおいても極めて高いレベルにあると認識した。</p> <p><b>4. 今後改善すべき点について参考となる事項</b></p> <p>本プログラムにおける申請手続きおよび終了後の事務手続きについて、全体の流れや必要書類が必ずしも明確に整理されておらず、煩雑に感じられる点があった。特に、帰国後の書類提出プロセスについて、より分かりやすい案内や手続きの簡素化がなされれば、参加者の負担軽減につながると考えられる。</p>		

	<p>5. 本年度に引き続き次年度も同じ目的（あるいはそれに準ずる目的）で派遣を計画している場合、本年度の派遣と異なる点及びその理由</p> <p>次回以降、本プログラムを活用して大学院生の派遣が可能となる場合には、欧州の研究機関に加え、米国の核融合関連研究機関への派遣も視野に入れたい。これにより、若手研究者がより多様な研究環境に触れ、国際的な視野と経験をさらに広げる機会を提供できると考える。</p> <p>6. 交流の概要、特に重要な課題などについて</p> <p>本研究室の学部4年生である緒方君とともに、グライフスヴァルト大学およびマックスプランク・プラズマ物理研究所を訪問し、現地研究者との交流を行った。世界的に先導的な核融合実験装置の見学に加え、当該装置から得られた研究成果について直接説明を受けることができ、理解を深める貴重な機会となった。</p> <p>また、若手研究者育成の観点のみならず、将来的な具体的共同研究の実施に向けた建設的な議論を行い、今後の連携強化につながる基盤を築くことができた。次回の交流では、共同研究および共同論文といった具体的成果へ発展させることを目指したい。</p>
備考	